



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：越野 民男 幹事：浅田 豊久

情報委員長：清水 忠

1976・5月6日

第64号



はなし か
“咄家とことば”

三遊亭円生師匠

咄家というと、何でもおしゃべりさえすればよいと考えている人が多いようですが、大変な間違いです。

私の幼い頃、柳家小さん（三代目）という名人がいました。

その有名な演し物“うどん屋”の中で、屋台の主人と客とのやりとりとして、

「水がうまいナ。いくらだい？」^な「無料です。」^た「た？」^た「たですヨ。」
「……………じゃもう一杯。」というのがあります。

ところが、小さんの後を継いだつばめが同じ演し物を、
「た？」^た「たですヨ。」^{そう}「か。たほど廉いものはないナ。じゃもう一杯。」と一言余分な言葉を入れた途端に、その咄は面白さを失って、すっかり人気^がが凋落したという有名な話があります。

けれど落語というものは、咄家の簡潔でピリッとした言葉と仕草が聴き手の想像力を呼び起し、足りない所を聴き手自らが補い、云ってみれば咄家と聴き手が^{ひととき}一刻一体となって義理人情の世界を創り出すところに、その真骨頂があるといえるでしょう。

古来日本では寡黙が美德とされ、腹芸とか以心伝心とか肝胆相照らすとかいう言葉があるように、心に誠さえあれば黙って向い合っても自らそれが先方の胸に通じる、千万言を費やすよりも、そういう暗黙の諒解の方が貴いとする気風があります。

小さん師匠の咄は、この日本人の気風と日本の言葉の持味を、巧まずして訓える古今の落語の絶品であると思います。

—金沢北RC例会卓話から—

(文責 清水 忠)

渡辺和子さんの

「美しい人に」を読んで

安積 得也氏

岡山で女子大学長を勤める修道女のエッセイ講演集。

＜考えさせられないページはない＞というのが、読後の実感である。溢れるものが、かたくなに閉ざれた対者の心さえ柔らげてしまう。

「人は話す前は自分の言葉の主人だが、口から出してしまった言葉の奴隷でしかない。そのためにもよく考えて話すことがたいせつだ」とこの人はいう。「美しさは女の生命だともいえる。修道院に入った身に着飾ることも、化粧することも縁遠くなったが、美しい言葉を使うことはできる」ともこの人はいう。いづれも「沈黙は美しい」と題するエッセイ（40ページ）の中の一コマであるが、さすがと言いたい。

著者渡辺和子氏は、現在清心女子大学（岡山）の学長を勤める哲学博士である。昭和2年陸軍大将渡辺錠太郎教育総監の次女として生れた。2・26事件（昭和11年）で、父総監が青年将校の凶弾により、鮮血にまみれて敵死れた時の唯一の目撃者は、当時9才の著者であった。その人が29才にしてノートルダム修道会の修道女となった。やがてアメリカに派遣されて、ノートルダム本部の5年間修業、シスター・セント・ジョンの誕生となるのである。

——◇◇◇——

修道女という三字が連想させるものは、特殊の服装である。型にはまった制服である。あの修道服についてはカトリックの世界でも議論があるらしい。それについて著者はいう

「神がひとりひとりを独自の存在として創られたがゆえに、制服を廃して個性を生かした服をまとうべきだという意見もある。しかしながら、制服は個性を殺すという命題は正しいだろうか。むしろ私たちの個性は、制服を通してでも輝き出るほどに強いものであるべきではなからうか。」(60ページ)

そのような個性的な意見が、随所に見られる。意見というよりも、生活から溢れ出た心のリズムと言った方が適当なようである。

たとえば「隔たりを知っている愛」(15ページ)というユニークな一文の中で著者はいう。

「たった一人でよかった。あんな人が二人もいたら困ると冗談のようにいうけれども、この独自の存在、交換不可能なかけがえない存在は、人間の尊さの根源であるとともに、また人間理解の限界をもつくっている。自分でさえ時々わからなくなってしまう＜自分＞を、自分以外の人にすっかり理解してもらえと思うのがまず間違いであり、相手を理解しつくせると思うことは大それた思い上りである。」

これはいかにもこの人らしい。書評子がこの心あたたまる一書から、幾篇かのシスター・セントジョン語録を選ぶとしたら、この一コマは見逃すわけにはゆかない。

——◇◇◇——

「お金至上主義は決して人間を幸福にしません」という言葉のあとへ、こんなユーモアもつづいている。(210ページ)

「ある小学生が作文に＜ぼくはお母さんが大好きだ。だから良く勉強して、良い学校に入ろうと思う。卒業したら大きい会社に就職してお金をうんともうけて、お母さんを飛び切り上等の養老院に入れてあげようと思う＞と書いたというほど、幸せは金で買えるという思想が普及しています。」これは「豊かな人間関係」と題する講演の一コマだ。著者はここで「自分の心を他人に対してあたたかく開くこと」の大切さを静かに語るなのである。

「美しい人に——愛はほほえみから」

発行所 京都市南区西九条北ノ内町二 PHP研究所

定価 740円

